CASBEE®-建築(新築) 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版　使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.3.01)

1-1 建物概要

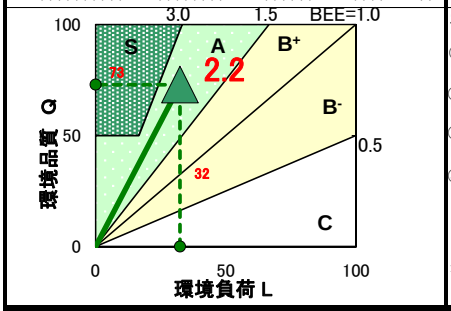
建物名称	クリタ分析センター(株)（仮称)新厚木事業所	階数	地上3F
建設地	厚木市　森の里若宮7番、5番2	構造	RC造
用途地域	準工業地域、防火指定なし	平均居住人員	80 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,400 時間/年
建物用途	事務所,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年5月　予定	評価の実施日	2017年2月20日
敷地面積	18,265 ㎡	作成者	(株)日建設計
建築面積	1,480 ㎡	確認日	2017年2月24日
延床面積	3,637 ㎡	確認者	(株)日建設計

1-2 外観

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

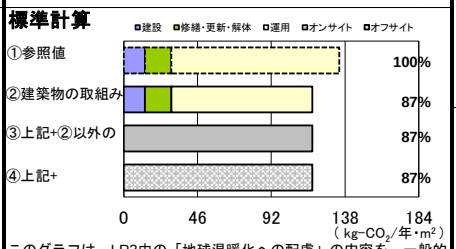
BEE =2.2 ★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★ B+: ★★★ B-: ★★ C: ★



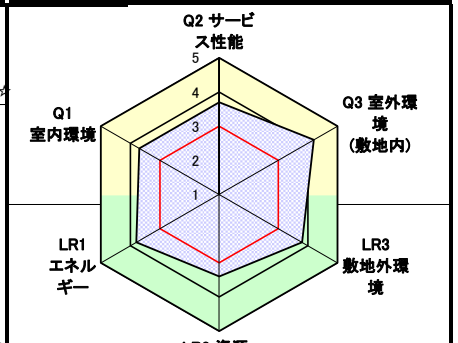
2-2 ライフサイクルCO2(温暖化影響チャート)

30%: ☆☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆ 100%超: ☆



このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO2 排出量の目安で示したものです

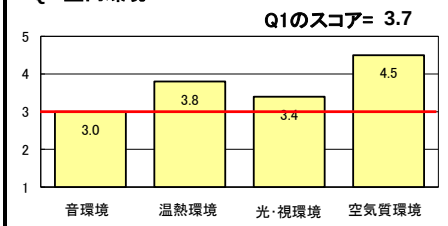
2-3 大項目の評価(レーダーチャート)



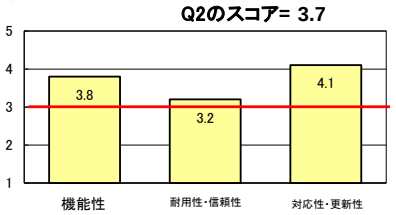
2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質　　Q のスコア= 3.9

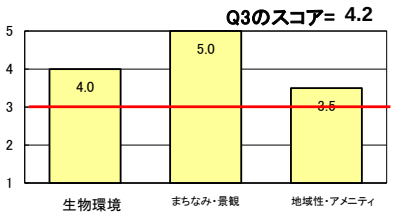
Q1 室内環境　Q1のスコア= 3.7



Q2 サービス性能　Q2のスコア= 3.7

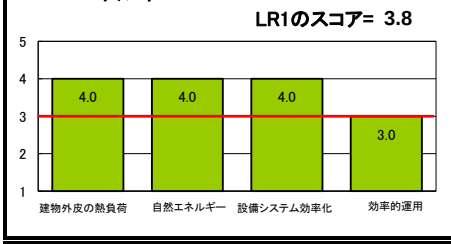


Q3 室外環境（敷地内）　Q3のスコア= 4.2

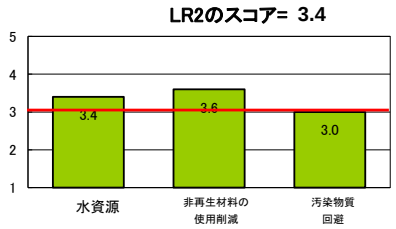


LR 環境負荷低減性　　LR のスコア= 3.7

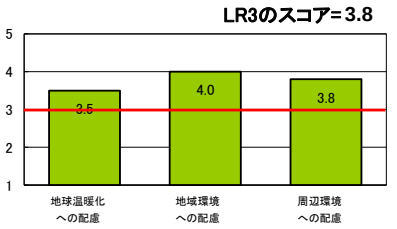
LR1 エネルギー　LR1のスコア= 3.8



LR2 資源・マテリアル　LR2のスコア= 3.4



LR3 敷地外環境　LR3のスコア=3.8



3 設計上の配慮事項

総合

周囲が傾斜地（森林）に囲まれた分析研究施設の計画である。分析研究の機能を確保すると共に、所員の交流とリフレッシュも意図したホールにトップライトから自然光を取り入れた。外壁面は窓を減らし、高性能ガラス使用の複層ガラスの採用により、エネルギー消費量が高りやすい研究所用途において、空調負荷を削減することで省エネ化を図った。敷地内は広い既存緑地を保全し周辺環境への配慮を行った。

その他

Q1 室内環境

・室の高い作業環境を実現するため、設定室温を夏期冬期共に24℃設定での運用を可能とし、1人当たりの必要換気量を30m3/h確保する計画とした。また、照明機器は500Lx以上の照度を確保した。

Q2 サービス性能

・受水槽,空調屋外機,重要機器発電機の二重化を図った。
・各階の階高を4,800mm確保することで天井内のメンテナンスや更新に配慮し、屋上に将来的な機器増設のためのスペースを設けた。

Q3 室外環境（敷地内）

・緑化指針に適合した計画とした。
・敷地周囲の既存森林エリアを保全することで、動植物環境と傾斜地の表土を保護する計画とした。

LR1 エネルギー

・ＢＭＳを採用し、空調機別の熱使用量のモニタリングが可能な計画とした。
・空調、照明を高効率機器とし建物の省エネ化を図った。
・トップライトにブラインドを設け日射負荷を削減した。

LR2 資源・マテリアル

・節水機器（大便器：6L/回以下、小便器：2L/回以下、女子便所擬音装置）を導入した。

LR3 敷地外環境

・建築設備から大気への排熱量を低減している
・空調熱源機器は電気式を主体とし、NOx、SOx、ばいじんの発生を抑えた計画とした。
・敷地周囲の既存森林エリアを保全することで、敷地外環境への影響を低減させる緩衝帯とした。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency（建築環境総合性能評価システム）
■Q: Quality（建築物の環境品質）、L: Load（建築物の環境負荷）、LR: Load Reduction（建築物の環境負荷低減性）、BEE: Built Environment Efficiency（建築物の環境効率）
■「ライフサイクルCO2」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO2排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される